



# 暴力のKYT：場面集



※本場面集は、暴力のKYTを行う際に使用することを目的に作成されたものです。

# Contents

A. 暴力の KYT とは	1
B. 暴力の KYT の場面	2
場面 1 不穏状態の患者の行動を制止する	2
場面 2 拒否する患者に食事介助を行う	3
場面 3 不機嫌そうな患者のオムツ交換を行う	4
場面 4 患者を便座から車いすへ移乗する	5
場面 5 術後患者のドレーン抜去の危険行動を制止する	6
場面 6 患者同士の口論を仲裁する	7
場面 7 刃物を持った患者に対応する	8
場面 8 無断離院行動を制止する	9
場面 9 病室でタバコを吸っている行動を制止する	10
場面 10 意識レベルの低下した患者の点滴ラインを確保する	11
場面 11 酔って寝ている患者を起こす	12
場面 12 物を壊そうとする患者を制止する	13
場面 13 救急外来で待ち時間を父親に伝える	14
場面 14 患者に付き添ってきた人に対応する	15
場面 15 時間外の面会要求をする人に対応する	16
C. 暴力の KYT シート	17

## A. 暴力のKYTとは

1973年、「ゼロ災害全員参加運動」開始に伴い、危険予知訓練は労働災害防止のために考案され、改良を重ねてきた手法であり、KYTのKは危険、Yは予知、Tは訓練(トレーニング)を意味する<sup>1)</sup>。暴力のKYTも、単に死亡災害や休業災害がなくなればよいという考えではなく、職場や作業にひそむすべての危険を発見・把握・解決し、暴力による健康障害や労働災害を根底からゼロにしていく理念ならびに4ステップ<sup>2)</sup>で進めていくことは同じである(表1)。

医療事故のKYTは、患者が被る医療事故の発生防止を目的としているが、暴力のKYTは職員が被る暴力事故の発生防止を目的としている(表2)。医療事故では加害者が職員で被害者が患者であるのに対し、暴力事故では加害者が患者で被害者が職員という点で異なる。暴力行為者は患者に限定されるものではないが、職員が被る暴力被害の頻度が高くその影響は深刻であり、職場にひそむ危険に気づき、解決していくための訓練が必要となる。医療事故の発生要因はヒューマンエラーと言えるが、暴力事故は本人の錯誤や不注意で引き起こされるのではない。

表1 暴力のKYTの4ステップ

ステップ	内容	進め方
1	<b>危険要因を想定する</b> どんな危険があるのか	潜在する危険を発見・予知し、危険要因により引き起こされる現象を想定する
2	<b>重大な危険要因と現象を絞り込む</b> 重要な危険ポイントは何か	予知した危険要因と現象のうち重大な危険要因を絞り込み、◎をつける
3	<b>具体策</b> 自分ならこうする	◎印をつけた重要な危険要因と現象を解決するために、具体的で実行可能な対策を考える
4	<b>チーム行動の目標</b> 私たちはこうする	具体策から重点項目を絞り込み、それを実施するためのチーム行動目標を設定する

表2 医療事故のKYTと暴力のKYTの比較

	医療事故のKYT	暴力のKYT
目的	医療事故の発生防止	暴力事故の発生防止
加害者・被害者	加害者：職員 被害者：患者	加害者：患者 被害者：職員
発生要因	ヒューマンエラー	本人の錯誤・不注意で発生するものではない
ツール	イラスト・写真	イラスト
研修方法	主に机上で話し合い	主にロールプレイをしながら話し合い

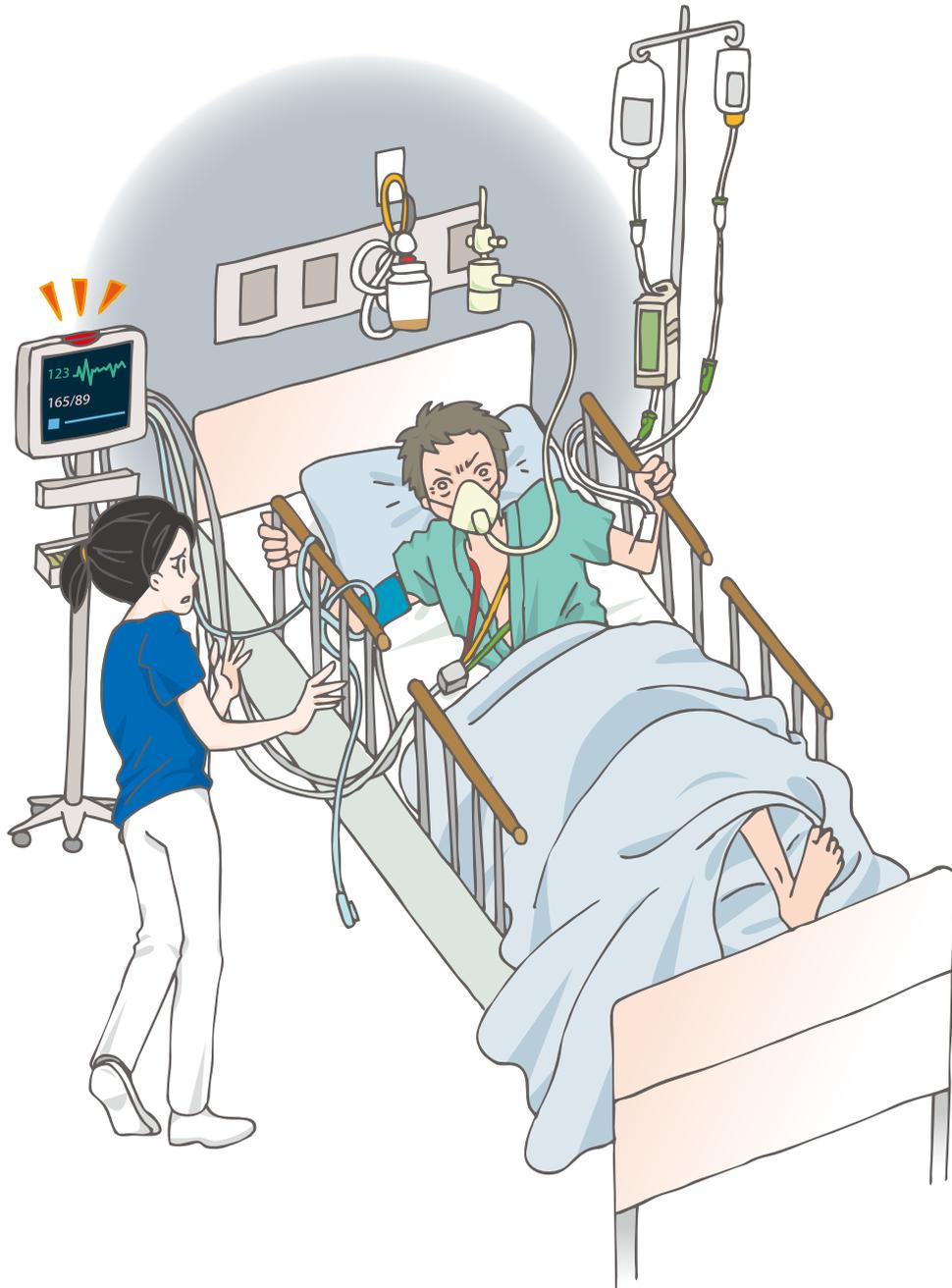
### 引用文献

- 中央労働災害防止協会編：危険予知活動トレーナー必携。東京：中央労働災害防止協会，103-127，2012。
- 三木明子，友田尋子：事例で読み解く 看護職員が体験する患者からの暴力。東京：日本看護協会出版会，75-76，184-193，2010。

## B. 暴力のKYTの場面

場面  
1

不穏状態の患者の行動を制止する



状況

病室において、不穏状態の患者の行動をあなたは制止しようとしている。

場面  
2

拒否する患者に食事介助を行う



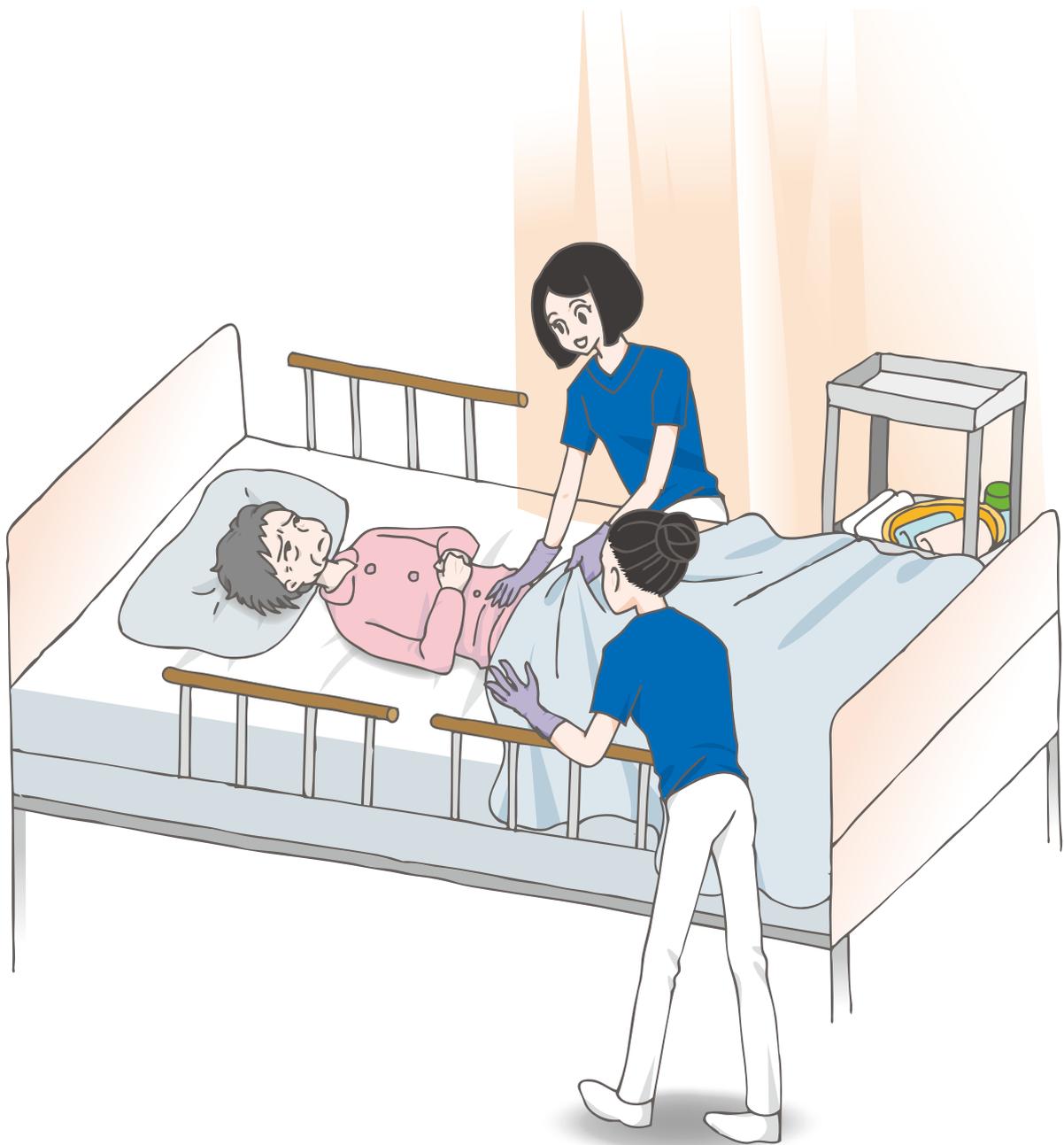
状況

病室において、食事を拒否する患者にあなたは食事介助をしようとしている。

## B. 暴力のKYTの場面

場面  
3

不機嫌そうな患者のオムツ交換を行う



状況

不機嫌そうな認知症患者に声をかけながら、あなたはベッド上でオムツを交換しようとしている。

場面  
4

患者を便座から車いすへ移乗する



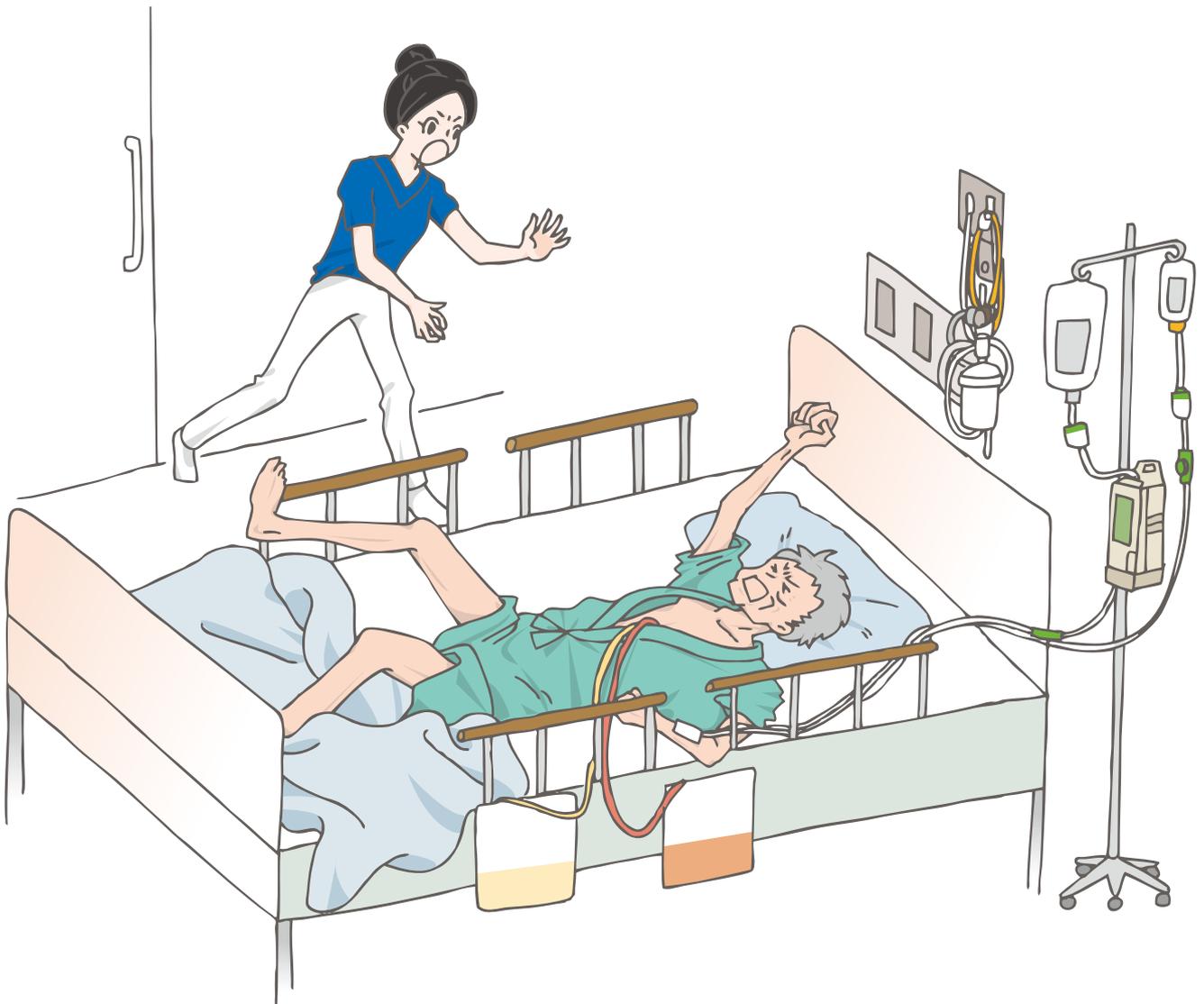
## 状況

トイレにおいて、あなたは便座から車いすへ筋力低下のある認知症患者を移乗しようとしている。

## B. 暴力のKYTの場面

場面  
5

術後患者のドレーン抜去の危険行動を制止する



状況

訪室した際、ドレーンを引っ張ろうとしている手術後の患者を見つけ、あなたはやめさせようとしている。

場面  
6

## 患者同士の口論を仲裁する



## 状況

ホールにおいて、入院患者同士が激しく口論していたのを見つけ、あなたは仲裁しようとしている。

## B. 暴力のKYTの場面

場面  
7

刃物を持った患者に対応する



状況

外来の診察室において、刃物を持った患者を見つけ、あなたは対応しようとしている。

場面  
8

## 無断離院行動を制止する



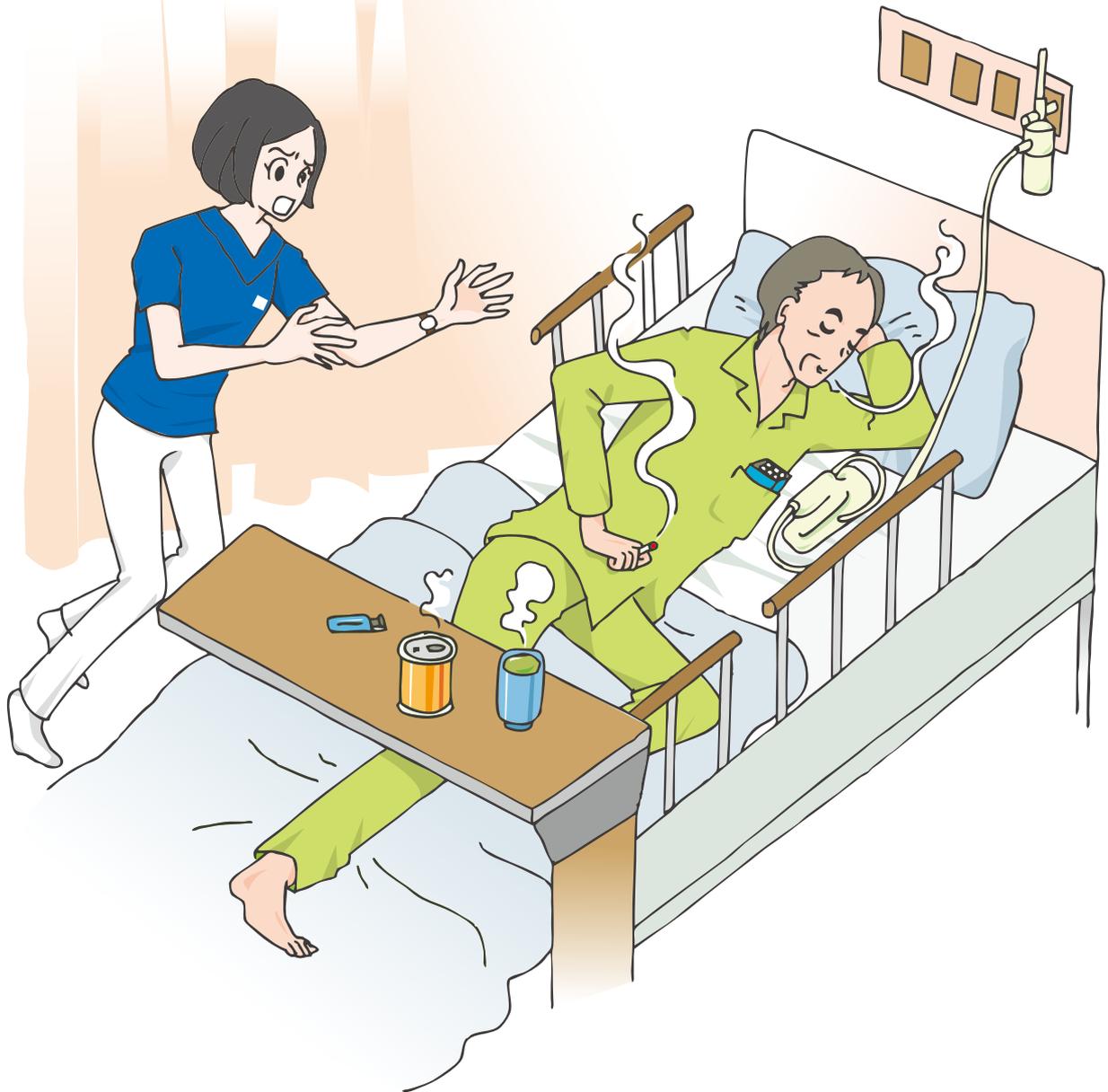
## 状況

休日、無断離院しようとしている患者を見つけ、病院の出入り口前であなたは止めようとしている。

## B. 暴力のKYTの場面

場面  
9

病室でタバコを吸っている行動を制止する

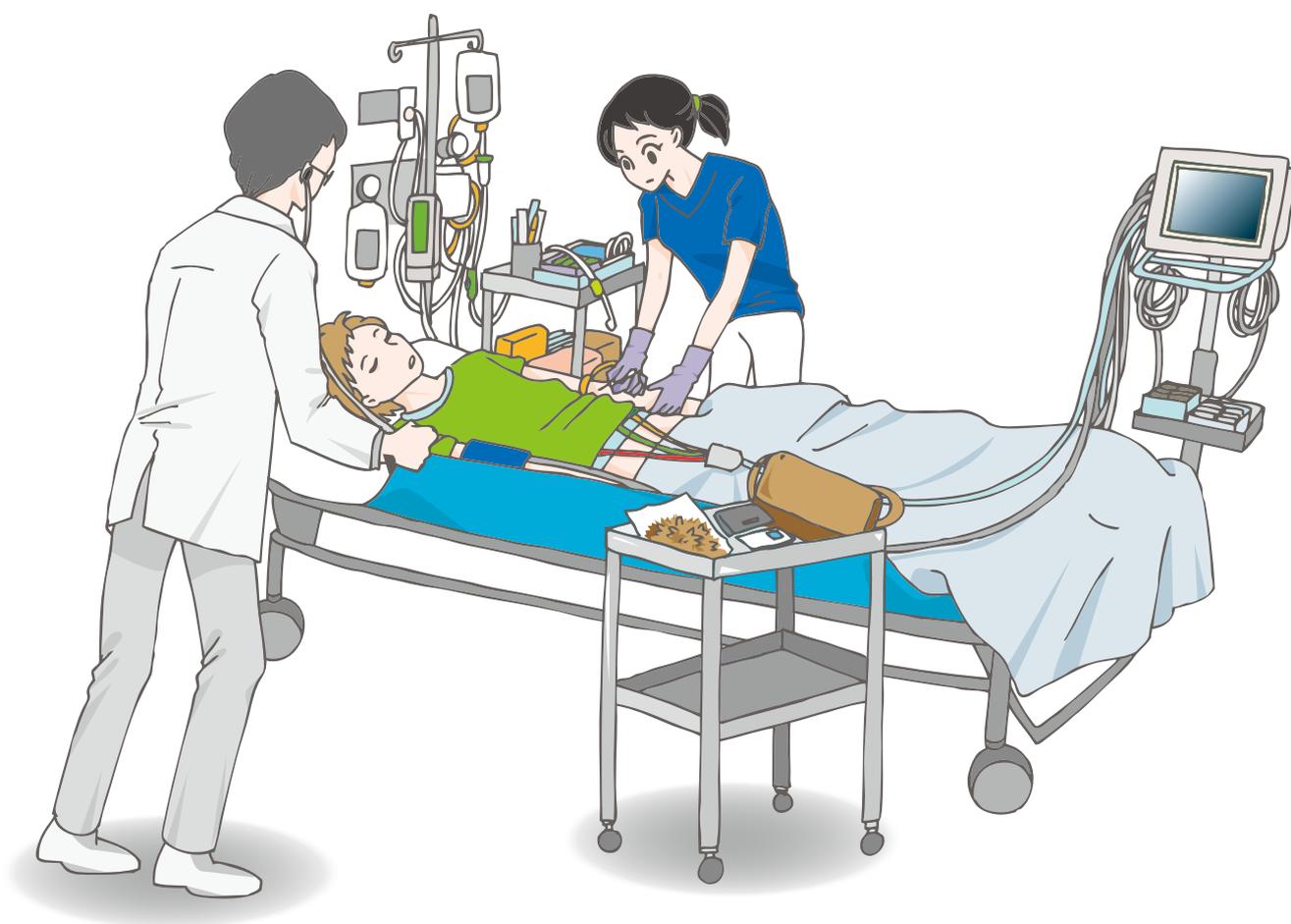


状況

夜間の巡視中、病室で酸素吸入中の患者がタバコを吸っているのを見つけ、あなたはやめさせようとしている。

場面  
10

意識レベルの低下した患者の点滴ラインを確保する



## 状況

薬物使用歴のある意識レベル（JCSⅢ -200）の低下した患者の点滴ラインをあなたは確保しようとしている。

## B. 暴力のKYTの場面

場面  
11

酔って寝ている患者を起こす



状況

外来の待合室の椅子の上で、酩酊状態で寝ている患者を、あなたは起こそうとしている。

場面  
12

## 物を壊そうとする患者を制止する



## 状況

外来入口において、椅子を振り上げている患者を見つけ、あなたは制止しようとしている。

## B. 暴力のKYTの場面

場面  
13

救急外来で待ち時間を父親に伝える



状況

夜間、救急外来を受診した父親に、あなたは待ち時間が長いことを伝えようとしている。

場面  
14

## 患者に付き添ってきた人に対応する



## 状況

救急外来に頭部外傷を負った患者と4名の弱度酩酊の付き添い人が来院したので、あなたは対応しようとしている。

## B. 暴力のKYTの場面

場面  
15

時間外の面会要求をする人に対応する



状況

面会時間外に、ナースステーションで「面会をさせろ」と大声をだしている人に、あなたは対応しようとしている。

## C. 暴力のKYTシート

### 第1ステップ ▶ 危険要因を想定する【どんな危険があるのか】

潜在する危険を発見・予知し、危険要因により引き起こされる現象を想定する

No	危険要因と現象『～なので…になる』『～すると…になる』と書く
1	
2	
3	

### 第2ステップ ▶ 重大な危険要因と現象を絞り込む【重要な危険は何か】

予知した危険要因と現象のうち重大な危険要因を絞り込む ※上の左欄に◎を1つ記入

### 第3ステップ ▶ 具体策【自分ならこうする】

重大な危険要因と現象を解決するために、具体的で実行可能な対策を考える

◎	No	具体策
	1	
	2	
	3	

### 第4ステップ ▶ チーム行動の目標【私たちはこうする】

具体策から重点項目を絞り込み、それを実施するためのチームの行動目標を設定する

チーム行動目標

# 暴力のKYT：場面集

---

作成日：2014年2月28日

作成者：三木明子

2014© 暴力のKYT：場面作成 三木明子<sup>1)</sup>，黒田梨絵<sup>2)</sup>

2014© 暴力のKYT：シート作成 三木明子<sup>1)</sup>

1) 筑波大学医学医療系

2) 筑波大学大学院人間総合科学研究科看護科学専攻博士後期課程

本場面集は、科学研究費補助金（基盤研究C）の助成を受け作成しました。

研究課題名「病院における患者・家族の暴力に対する医療安全力を高める体制の醸成」

（研究代表者：三木明子、課題番号：25463288）